3 . 研究系及び研究施設の現状

3-1 論文発表状況

3-1-1 論文の発表状況

分子研では毎年Annual Review(英文)を発刊し、これに発表した全ての学術論文のリストを記載している。

論文の発表状況

編集対象期間	ANNUAL REVIEW	原著論文の数	総説等の数
~ 1978.8.	1978	25	13
1978.9. ~ 1979.8.	1979	55	7
1979.9. ~ 1980.8.	1980	85	21
1980.9. ~ 1981.8.	1981	114	24
1981.9. ~ 1982.8.	1982	149	14
1982.9. ~ 1983.8.	1983	177	29
1983.9. ~ 1984.8.	1984	153	26
1984.9. ~ 1985.8.	1985	196	31
1985.9. ~ 1986.8.	1986	207	45
1986.9. ~ 1987.8.	1987	287	42
1987.9. ~ 1988.8.	1988	247	39
1988.9. ~ 1989.8.	1989	281	60
1989.9. ~ 1990.8.	1990	320	60
1990.9. ~ 1991.8.	1991	260	23
1991.9. ~ 1992.8.	1992	303	41
1992.9. ~ 1993.8.	1993	298	41
1993.9. ~ 1994.8.	1994	211	26
1994.9. ~ 1995.8.	1995	293	23
1995.9. ~ 1996.8.	1996	332	40
1996.9. ~ 1997.8.	1997	403	41
1997.9. ~ 1998.8.	1998	402	44
1998.9. ~ 1999.8.	1999	401	47
1999.9. ~ 2000.8.	2000	337	30
2000.9. ~ 2001.8.	2001	405	65
2001.9. ~ 2002.8.	2002	489	59
2002.9. ~ 2003.8.	2003	530	45
2003.9. ~ 2004.8.	2004	367	40
2004.9. ~ 2005.8.	2005	402	44

3-1-2 論文の引用状況

論文の引用数については、米国トムソンサイエンティフィック社（通称ISI）の引用動向データに基づく調査結果が毎年公開されている。ただし、化学分野の場合、総被引用数で国内10位までしか公表されないため、分子科学研究所のように小さな所帯では総被引用数で10位に入り切らないことがある（15位までのクラスには入っているとされる）。一方、国立情報学研究所の根岸正光教授は同じISI社のデータから化学分野で論文総数で国内30位以内という基準で調査対象とする組織を選んだ上で、研究者の数に依存しない論文1報あたりの平均被引用数をもとに分野の違いが出ないような統計処理を行って引用度指数というものを算出している（文献1に定義がある）。ここでは表1に文献2に公表されている最新のデータを示す。ひとつの目安でしかないが、化学分野では岡崎国立共同研究機構（分子科学研究所と見なして良いであろう）は引用度の高い論文を生産していることがわかる（論文総数は10位）。なお、物理学分野では化学分野ほどよくなくて、岡崎国立共同研究機構（同じく分子科学研究所と見なせる）は引用度指数118で9位（論文総数は1021報で14位）にランクされている。²⁾

参考文献

- 1) 根岸正光,「大学ランキング2003」,朝日新聞社, pp. 134-141 (2002).
- 2) 根岸正光,「大学ランキング2006」,朝日新聞社, pp. 204-207 (2005).

表1 日本の大学等の分野別論文引用度指数
分野:化学(1993-2002)²⁾

順位	大学等	論文総数	引用度指数
1	岡崎国立共同研究機構	1803	158
2	東京大学	6714	135
3	名古屋大学	3240	130
4	京都大学	7349	126
5	東京理科大学	2088	123
6	北海道大学	3751	122
	東京都立大学	986	122
8	大阪大学	5899	115
	九州大学	4014	115
10	千葉大学	1486	111
	東北大学	5287	111
12	早稲田大学	1071	108
13	東京工業大学	6296	105
14	大阪市立大学	1244	102
15	京都工芸繊維大学	1196	97